

【代表取締役社長（所長）：岩村 理恵 ご挨拶】



高校新卒で入社したのは証券会社『山一証券』。入社後『**場電係**』配属され、そこでの業務は電話の受話器を両手・両耳交互に使い注文内容を聞き、メモを取り発注をかける……。取引額の億単位は普通で、0（ゼロ）ひとつの間違いでとんでもない額の損失がでてしまう、緊張の毎日で神経性胃炎が2年間も続くという辛い激務でありましたが、約11年勤め上げました。

その後ブランクを経て1995平成7年、家業である現職に従事しました。当初は未経験で旅館案内所という旅行業界の一端を担う業務に慣れるまで苦慮しましたが、地方より神奈川への営業で出てきて下さる担当様や日常の業務の中で旅館の現場（社長、予約接待係）様、取引先旅行者様の親切なご指導を頂きながら、業務をこなせるようになりました。

数年後、私の父である**創業者が急病**による入院で未経験の外回り営業を担うことになりましたが、創業者の病状は悪化の一途で営業ルートや取引先などの引継ぎは病床の上で行ない、私が運転できる中古車を購入も、その後回復を見せず闘病敢無く2001平成13年に**他界**。

母（現会長）と私の二人になってしまい、誰もが事業を畳むことと思われておりましたが、会員施設や取引先である旅行者の方々の厚いご支援もあり、**女手二人で事業を継続**し新たにスタートすることを決意しました。

やがて、旅行業経験者である現専務と結婚、その翌年には**女兒を出産**しながらも2週間で業務に復帰。1軒の旅館案内所から創業し、私が入所したときに10数軒だった会員施設（現：契約施設）様もおかげさまで100軒を超え電話が鳴り止まない状況にまでなり、次から次へと業務をこなす必要が出てきましたが、ここで証券会社の『**場電業務**』で習得した電話受付のスキルは見事に功を奏し、適うことになったのは意外でした。

そしてコロナ禍とIT、AIの発達で従来のビジネスモデルが通用しなくなる世情の中、**2023 令和5年に創業45周年**を迎えますが、迅速・確実と『**当たり前のことに対し忠実に**』を常に心がけ、創業者（父）が営業後に頂いた初の1本の電話を受けた時の感動と『**創業初心を忘れず**』に、これからも皆様と共にお仕事を進めさせてい頂けたら幸いに思います